

国語

1 目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解したりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

※ 「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」は、学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けられている。そのうえで、「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」とともに、5観点として設定されている。

3 改訂のポイント

言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置く。

- 小学校で身に付けた技能に加え、社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう継続的に指導することとし、中学校段階にふさわしい文章や資料等を取り上げ、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、他者と相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を重視する。
- 国語の能力を育成するためには、具体的な言語活動を通して指導事項を指導することが大切である。その際、生徒が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。
- 「話すこと・聞くこと」においては、話すことと聞くことの指導事項が分けて設定されていることにより、特に聞くことの内容が一層明確になっていることを踏まえ、能動的に聞く力を育成するための指導を行う。
- 「書くこと」においては、「課題設定や取材→構成→記述→推敲→交流」といった一連の学習過程を重視する。なお、学習過程のいずれの段階においても、生徒同士の学び合いを取り入れることが大切である。
- 「読むこと」においては、「語句の意味の理解→文章の解釈→自分の考えの形成→読書と情報活用」

といった文章を読解する過程を意識して指導事項が配列されていることを踏まえ、場面ごと、段落ごとに平板に読み取らせることに偏った指導を改善する。

- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」については、小学校での指導を踏まえ、各領域との関連を図った指導や伝統的な言語文化に関する事項のみを取り上げた指導を通して、古典を素材とした多様な言語活動が行えるよう配慮する。
- 読書の指導については、各領域や他教科等の学習との関連を図りながら、言語活動例を具体化し、授業における読書活動を一層充実させる。また、学校図書館を計画的に活用し、学習に係る資料や情報を収集したり整理したりすることができるよう指導する。
- 漢字に関する指導では、小学校学習指導要領における学年別漢字配当表に示している漢字を、第2学年では「書き、使うこと」、第3学年では「使い慣れること」ができるよう指導する。
- 硬筆及び毛筆を用いた書写の指導については、配当時間に基づき各学年で行うことが必要である。

《示されている配当単位時間の目安》

領域等	学年	中学校		
		小学校 第5・6学年	第1・2学年	第3学年
		155	140	105
「A 話すこと・聞くこと」		25	15～25	10～20
「B 書くこと」		55	30～40	20～30
書写		30	20	10

4 評価規準と展開例

1) 単元名

図表をつかって報告しよう 【第2学年】
～資料を効果的に活用してわかりやすく話す～

どの単元においても、ねらいには【国語への関心・意欲・態度】及び【言語についての知識・理解・技能】の観点をあげる。【話す・聞く能力】【書く能力】【読む能力】の3観点については重点的に取り上げる観点のみとし、すべてをあげる必要はない。

【国語への関心・意欲・態度】は「～しようとする」、その他は「～できる」と記述する。

2) 単元のねらい

- ・調べたことについて聞き手が理解しやすいように工夫して説明しようとする。【国語への関心・意欲・態度】
- ・社会生活の中から話題を決め、報告するための材料を多様な方法で収集・整理してまとめることができる。【話す・聞く能力】
- ・わかりやすく説明するために要点を示したり、図表を活用したりして報告することができる。【話す・聞く能力】
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書くことができる。【言語についての知識・理解・技能】

3) 単元の評価規準

学習評価は、評価規準にしたがって行う。評価規準で取り上げなかった観点や内容については必要に応じて指導は行うが、評価の対象とはしない。学習評価の対象はあくまでも評価規準で取り上げた内容についてである。

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
調べたことについて聞き手が理解しやすいように工夫して報告しようとしている。	①社会生活の中や、マスコミ等で取り上げられている話題の中からマッピングの手法を使ってテーマを見つけ、情報カードを使って報告するための材料を収集・整理してまとめている。(ア) ②わかりやすく説明するためにフリップを用いて要点を明確にしたり、図表を効果的に活用したりして報告している。(ウ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。((1)ウ(イ))

4) 単元の指導計画と評価計画 (全8時間)

【評】学習評価は全8時間の中で計画的に行う。「単元の評価規準」に記載した3観点の評価を、1単位時間の中ですべて行わなくてよい。

次	時	目 標	主な学習活動	評 価			
				国語	話す	言語	
1次	1	調べて報告する内容を決める。	①教師が示すフリップを用いた発表の例を見て、図表を効果的に用いた発表のイメージをもつ。 ②最近気になっていることや知りたい事柄をできるだけたくさん挙げる。	○	○	○	【国】発想を広げながらマッピングシートにたくさんの事柄を書き出している。(シート) 【話】グループでの話し合いにより発想を広げている。(観察)
	2	報告する内容の概要を調べ、使う図表を決める。	①報告しようとする内容について百科事典等で概要を調べ、大切だと思う部分について、情報カードにまとめる。 ②発表にどのような図表が使えるかについて考え、探した図表については付せんを貼る。	○	○	○	【話】適切な言葉をとらえて情報カードにメモしている。(カード)
	3	報告する内容について書かれている情報を図書資料等から探し、要点をカードに書き込む。	①用意された図書資料等から該当の内容が書かれている場所を探して付せんを貼る。 ②付せんを付けた箇所について、情報カードに大切な部分を書き出す。	○	○	○	【話】情報カードを使って必要な情報を取り出したり、分類したりしている。(カード)
	4	報告する内容について書かれている情報を図書資料等から探し、要点をカードに書き込む。	①前時までの情報カードや資料をもとに、5枚程度のフリップを作成する。	○	○	○	【言】学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。(フリップ) 【話】図表を用いた説明の効果などを考え、情報カードの内容をわかりやすく整理して発表用のフリップを作成している。(フリップ)

【指】報告しようとする内容についてマッピング(※1)により発想を広げさせる。

【指】生徒が調べようとする内容についてはクラス全員分の一覧表を作成し、学校司書等と協力をして参考となる資料を集める。

【評】マッピングシートについては授業後に回収し、調べるための資料が準備できるか、調べやすい内容か等の観点で確認したうえで生徒に返す。

【指】ある程度個人で考えたところで、途中経過をもとにグループで話し合わせ、さらに発想を広げさせる。

【指】調べ学習では最初に百科事典等の参考図書にあたることを指導する。(※2)

【指】実際に調べ始めてみると、情報が不足するテーマであることも考えられる。その際にはマッピングシートに返って内容の設定をし直すことも必要である。

【評】「話すこと・聞くこと」の学習指導であれば、情報カードに書く活動があっても【書く能力】の観点からは評価しない。

【指】必要に応じて年鑑(※3)やデータ集などを示して使える図表の例を示す。

【指】著者の言葉をそのまま使う場合には「」で引用することを伝える。

【指】情報カードに書き込むための要約の仕方については、第1学年「読むこと」の指導事項「目的や必要に応じて要約する」学習で学んだことを活用させる。また日常の学習活動でも必要に応じて取り上げ要約に慣れさせる。(※4)

【指】著作権については情報活用のための知識として指導しておく。

7	8	フリップを用いてグループ内で発表し、感想を交流する。	○	○	○	【国】フリップに書いた内容を理解し、発表しようとしている。(評価カード) 【話】図表を効果的に活用してわかりやすく発表している。(観察・記録)
---	---	----------------------------	---	---	---	--

【指】発表時には発表原稿を作らず、フリップだけを見て発表するように指導する。その際、第1学年の「話すこと・聞くこと」の指導事項「相手の反応を踏まえながら話す」で学んだことを活用させる。

【指】説得力をもった発表についてはクラス全体の中で発表することも考えられる。

5) 本時の学習 (第2次 3・4時間目)

本時のねらいについては、単元の指導計画に基づいて設定する。1単位時間の中に常にすべての観点をあげる必要はない。

① 本時のねらい

・わかりやすく報告するための情報を様々な資料から集めて整理することができる。

【話す・聞く能力】

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価(評価方法)
1 本時の学習のめあてを確認する。 必要な情報を探して情報カードにまとめ、分類しよう。	○あらかじめ準備した資料の概要について説明する。 ○必要な部分が見つからない生徒については、目次や索引を使うように指導する。	【指】目次や索引の使い方については、小学校での学習を踏まえ、日常の学習活動の中で必要に応じて指導しておく。
2 図書資料等から必要な情報を探して付せんを付けた上で、情報カードにメモをする。 【指】カードに書く情報は1枚につき1項目として、できるだけたくさんのカードを書いていくように指導する。(※5)	○カードへの書込の段階では資料の丸写しにならないよう、キーワードやキーセンテンスを書き込むように指導する。 ○→や傍線、文字囲などの記号等も使ってメモをするよう指導する。	【指】カードにメモを書き込むときに写し書きに終始していないかを確認し、キーワードが見つけない生徒については個別に指導する。
3 使おうとする図表からわかる事柄について情報カードにまとめる。	○何を表した図表なのか、図表から何がわかるかをカードに書いていっているかどうか確認する。	【評】本時の前後でカードを点検し、生徒がフリップをまとめることができるような学習過程にあるかを確認する。
4 書いたカードを5枚程度のフリップにまとめることができるように分類する。	○カードに書かれた内容に合わせて、5つ程度のまとまりに分けられているかどうかを確認する。	☆適切に要約しながら情報カードを書き、それらを分類している。 【話す・聞く能力】(カード)

【指】内容のまとまりごとに分けることができない生徒には、カードを使って分け方の例を示す。

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
話す・聞く能力	報告するために大切なことが何かを意識して情報を収集し、内容に合わせて情報カードを分類している。	報告するための材料として図書資料等の言葉や文を情報カードに書き、分類している。	報告したい事柄にもとづいて、図書資料等から言葉や文を引き出し、メモができるようにする。

注 ※1～5については、県教委作成の学校図書館活用教育研修DVD「学びを支え 心をはぐくむ しまねの学校図書館」にスキル学習としての授業の展開例が収められているので参照のこと。